

第4回やまぐち水素成長戦略推進協議会



～ 水素ステーション整備の新たな枠組み～

2018年7月18日

日本水素ステーションネットワーク合同会社

水素基本戦略等におけるJHyMの位置づけ



水素基本戦略 (2017年12月)

100ヶ所の水素ステーションが開所する2017年度以降は、民間11社により設立予定の水素ステーション整備会社を中心に、多様なプレーヤーを巻き込み先行投資の負担を軽減しながら、需要シミュレーション等に基づき水素ステーションの最適配置を効果的に進める。

資源エネルギー庁ニュースリリース (2018年3月23日)

「世界に先駆けて水素ステーション100か所が開所します」

先般設立された「日本水素ステーションネットワーク合同会社」(JHyM)を中心としたオールジャパンでの協業により、水素ステーションネットワークの更なる拡大が期待されます。経済産業省としても、世界に先駆けた水素社会の実現に向け、水素ステーション整備を後押しするべく、規制改革、技術開発、水素ステーションの戦略的整備を三位一体で強力に推進してまいります。

協業により水素ステーションの整備を加速

水素ST整備に向けた、インフラ事業者、自動車会社、金融投資家等が連携する、世界初の取り組み

自動車会社

TOYOTA NISSAN HONDA

JAPAN H₂ MOBILITY

JHyM



JXTGエネルギー



IDEMITSU

Iwatani



エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS



東邦ガス



Air Liquide
creative oxygen



SEIRYU
POWER ENERGY



根本通商株式会社



豊田通商



DBJ
日本政策投資銀行



JA三井リース



損保ジャパン日本興亜



SMF
三井住友ファイナンス&リース

NEC

NECキャピタルソリューション株式会社



SPARK
スパークス・グループ株式会社

インフラ事業者

金融投資家

JHyMの概要

社名	日本水素ステーションネットワーク合同会社 Japan H ₂ Mobility, LLC (略称 JHyM)
代表社員職務執行者 (社長)	菅原 英喜
住所	東京都千代田区九段南2-3-18 トヨタ九段ビル3F
参画企業 18社 (7月18日現在) ★…業務執行社員	トヨタ自動車★、日産自動車、本田技研工業★ J X T Gエネルギー★、出光興産、岩谷産業★、東京ガス、 東邦ガス、日本エア・リキード★、根本通商、清流パワーエナジー、 豊田通商、日本政策投資銀行★、JA三井リース、 損害保険ジャパン日本興亜、三井住友ファイナンス&リース、 NECキャピタルソリューション、未来創生ファンド
事業内容	・水素S Tの戦略的な整備 ・水素S Tの効率的な運営への貢献
事業期間	設立：2018年2月20日 10年間(2018年～2027年)を想定

1. 戦略的な水素ステーションの整備

- 第I期（2018～22年：4年間）で80箇所を新設
- FCV需要の最大化を目指した配備

2. 水素ステーションの効率的な運営への貢献

- FCVユーザー利便性の向上
- 情報一元化により、ST休業・ダウンタイム縮減の調整

3. 水素ステーション自立化への取り組み

- 外部機関と連携し、規制見直し、機器の標準化等の検討を通じたSTコストダウン

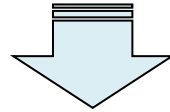
JHyMの目指す姿

FCVと水素STの好循環を創出

JHyM

戦略的な水素ST整備

水素STの効率的な運営



お客様
の利便性向上

更なる
水素ST整備

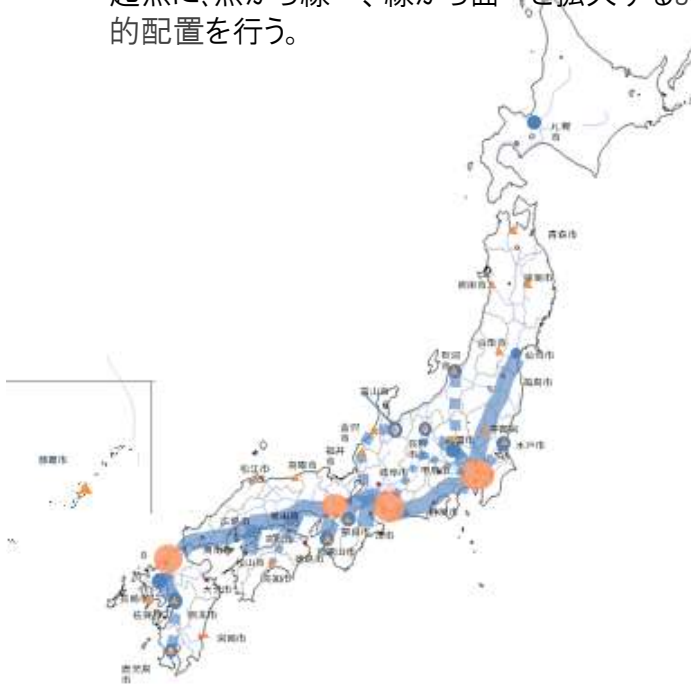
FCV台数の
増加

水素ST事業の
自立化

第 I 期ST整備計画方針

下記2点を考慮し、2022年3月末までを目途として、合計80基のSTを整備することを目指す。

1. FCV普及の飛躍的拡大にむけ、FCV需要の最大化を目指した水素STの最適配置、および水素需要に応じた供給能力の確保を目指す。
2. ユーザー利便性向上と水素モビリティ普及に向け、水素STネットワークを、四大都市圏を起点に、点から線へ、線から面へと拡大するよう、主要都市及び交通の要衝を重点に戦略的配置を行う。



【地域別取り組み方針】

- 四大都市圏については、FCVの普及に応じて、地域的な空白地帯を埋める。
- 水素STネットワークを点から線へと広げるため、政令指定都市、四大都市圏や政令指定都市を繋ぐ地域へのST整備を行う。
- それ以外のST未整備地域については、地方自治体等との連携を進め、全都道府県へのST整備を実現するよう活動する。

ステーション整備方針の策定から建設まで

JHyM

整備地域などの
S T 整備方針を公表

JHyM

各インフラ事業者からの
提案を基に S T 整備計画
を策定

インフラ事業者

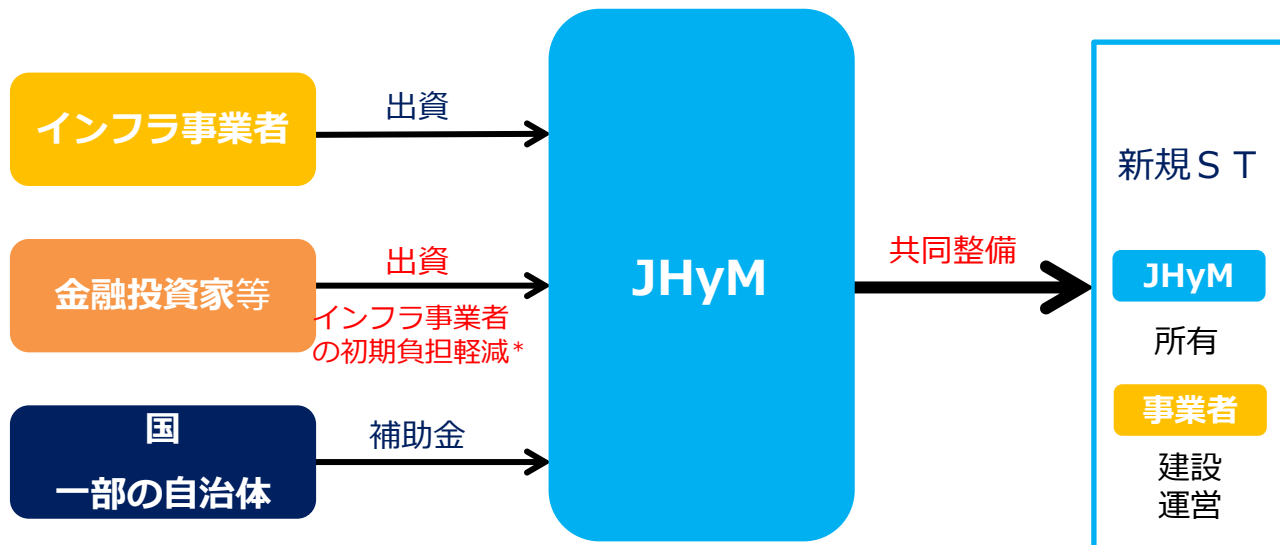
整備方針に沿って
整備計画を提出

インフラ事業者

JHyMと共同で
S T を整備

水素S T整備に関する事業スキーム（イメージ）

投資家の出資金を活用し、インフラ事業者の初期投資を軽減

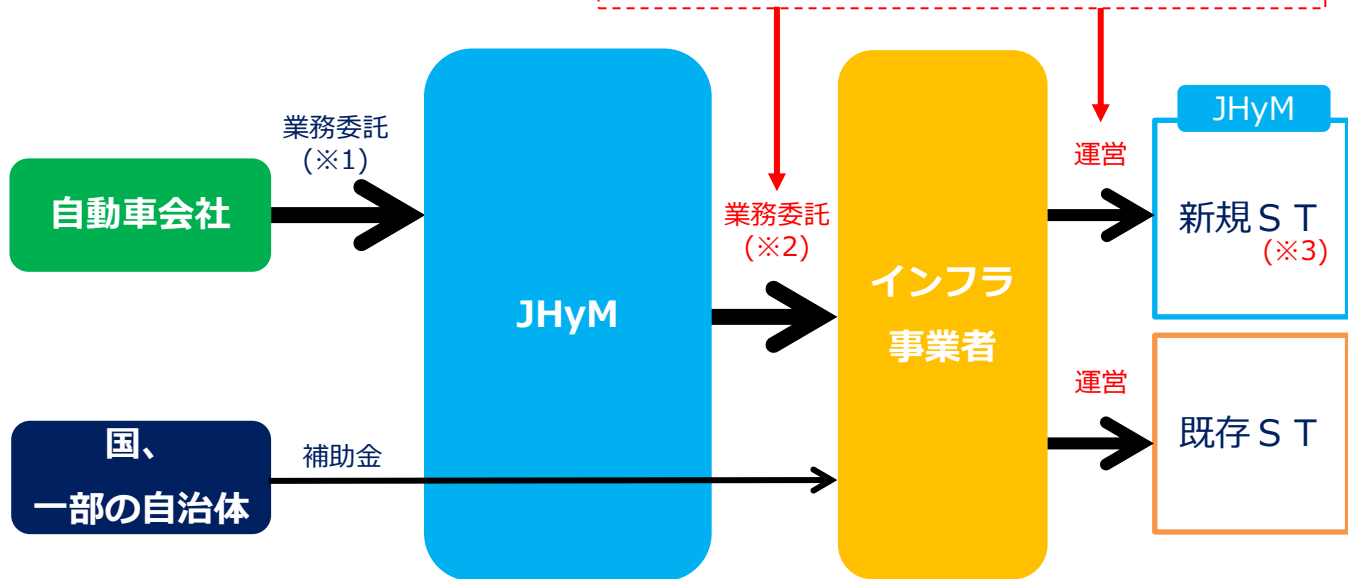


(*) 地方での整備や中小企業に対しては
インセンティブとして追加出資制度有り

水素ST運営に関する事業スキーム（イメージ）

JHyMは業務委託を通じ、インフラ事業者へ
長期安定的な水素ST運営環境を提供する

最長10年の長期安定的な運営環境の提供



- ※1…FCV需要最大化に関する業務委託
- ※2…新規STの維持・管理、情報提供等
- ※3…自社ブランドでの運営

インフラ事業者のJHyM参画メリットと要件

JHyM 参画メリット

1. ST整備費に関する初期費用負担の軽減

- JHyMからのCAPEX支援により初期負担軽減
- 地方への整備や中小企業に対しては追加のインセンティブ

2. ST運営費の長期安定的な負担軽減

- 業務委託により、長期に亘り運営費負担を軽減
- 水素ステーションは、JHyMへの譲渡後も自社ブランドで運営

JHyM 参画要件

- ✓ 第 I 期中に水素ステーションを建設
- ✓ JHyMの会費支払い

対象となる水素ステーション

- 基本的に水素供給能力 300Nm³/h以上
- 満たない場合は、将来の能力増強計画等が必要

- “JHyM”は
 - ・オールジャパンで水素S Tの整備を推進する会社。
 - ・金融投資家等の資金を活用し、インフラ事業者の初期投資額を低減する世界初の取り組み。
- JHyMの活動内容・特長
 - ・今後4年間で80箇所のS Tを建設。
FCV需要最大化に向け、S Tの戦略的な最適配置を目指します。
 - ・JHyMに集まった情報を通じ、お客様の利便性向上、事業者の自立化のための諸活動（コストダウン、規制緩和提言等）を行います。

今後、広く新規事業者の参画を募ります。
ご関心のある方は、是非ご連絡ください。

info@jhym.co.jp